

令和6年5月29日(水)

成果と課題を研究し今後の教育活動に生かす

## 1 実践からの学び(成果)

- NINOの結果よりわかった自分の強みと課題をどのように授業に生かしていくのかを理解することができました。生徒が自分の課題に向かって前向きに取り組もうとする姿を感じることができ、これも研究の成果ではないかと感じました。
- 教員はWEBQUとNINOの検査結果を踏まえた指導や支援を行い、生徒たちはNINOのアドバイスシートをそれぞれ良さと課題に目を向けながら課題設定に取り組んでいました。また、自身の課題設定について難しく感じた際、仲間にアドバイスをもらったりアドバイスしたりと、自分の実践から仲間へ共有する場面がさまざまな場所で見られました。
- 生徒に単元の見通しを持たせる重要性を再認識しました。
- 自己分析(過去の単元学習での振り返りと自分の強み・弱みの現状把握)からの単元学習の見通しを持たせる上で、学習キャリアパスポートの教育的効果の意義がよく理解できました。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、学習キャリアパスポートを活用することの重要性を再確認することができました。
- NINOを活用するモデルだったと思います。自分の特性を知ることが大切だと思いました。授業観察を通して、NINOを基に学習課題や学習の見通しをもたせる授業のありかたを学びました。また、授業後の研究会では、NINOを基にした生徒理解について学びを深めました。
- 単元内自由進度学習のイメージを共有することができました。
- NINO検査などの活用がとても参考になりました。
- 標準化検査を活用して、組織で班に3つの機能を持たせた活動を仕組むことで協働するための基盤として必要な学級の安定がつくられていると思います。心理的安定がなければ主体性は向上しなれません。これまでの成果で誰とでも協働できている学級集団の姿がみられました。
- 自立した学習者を育成するために、学習キャリアパスポートを活用して見通しをもち学習方略や時間等をNINOのデータをもとに生徒自ら単元内自由進度学習を立案することは内発的動機付けになり、主体的に学習に取り組む生徒の育成につながるのではないかと思います。

- ・自らの特性を自己開示したり、誰とでも協働したりするためには一人一人の心理的安全性の確保が必要である。
- ・標準化検査を全職員の共通指標として、個人と集団の実態に適した継続指導が重要である。
- ・学習キャリアパスポートを活用して、単元内自由進度学習を実践することで育成すべき力をつけさせる学習指導が重要である。
- ・生徒と教員が個人と集団の強みと弱みを把握していることによって適切な支援と指導ができる。

## 2 実践からの学び（課題）

- 目標を設定するにあたり、教師が単元全体を見通すことが大切であることを実感しました。教師が見通しをもつことで、生徒への声かけや指導の質が変化していくことを黒沢先生の講義から学びました。
- 見通しを持たせるという点では、キーワードを最初に確認しアンダーラインを引かせたことはとても効果的だと思いましたが、与える本時のようなガイダンスの際に情報の量や内容、提示するタイミングは課題になるかと思いました。
- 「単元が終わったときの姿」を生徒にイメージさせたい。また、学習キャリアパスポートを記入していくことでどのような変容が見とれるのか検証していきたいと思います。
- 自己の課題設定に苦勞している生徒の実態が分かりました。何をどのように書いていいのか形式的な学習キャリアパスポートの質を高めるために、本質をさらに追究する研究が求められます。
- 単元のどの場面でどんな能力が活用できるかなど、生徒が場面を想像できる説明をすること。そうすることで、単元の見通しをさらに持つことができ、学習キャリアパスポートのめあて分析や自己分析、そこからの計画立案の支援ができる学びました。
- B評価の基準を読み解くことは大切だと感じました。
- 自身の授業を見直したとき、得意とする能力・苦手とする能力を踏まえた学習課題の設定にまだまだ課題があると感じました。
- どのような声かけ（支援）が有効か、考えていくことだと思います。
- 今後は学習キャリアパスポートの、単元ごとの工夫が必要だと感じました。
- 各自の特性をどのように生かしたらよいかは、まずは教員が知識として持ち、生徒に気づかせながら計画を立てることが必要だと思います。何を書いたらいいのかわからない、考えはあるが動き出せないことにつながっている様子も見えました。

- ・単元内での個人と集団の得意な場面を示すことが必要。
- ・生徒がどの力をどのように生かしていくか、教員が具体的に理解し指導することが重要。
- ・生徒に適した学習課題の設定は、内発的動機付けになり主体的に学習する生徒の育成につながる。

## 3 今後の実践に向けて

- 各学年で分析したNINOの結果について共有し、日々の関わりに活かしていきたいです。
- 自分の教科で課題設定を行う際に、単元の見通しを持たせる活動で標準化検査の結果を効果的に反映させ、単元の学習で生徒の学びをより促進していけるような工夫を行っていきたくと思いました。そのために、WEBQUやNINOについて、教員である自分がより深く理解しなければならないと改めて感じました。
- 単元内自由進度学習について実践を繰り返し、授業改善を行っていきたくいです。

- 学習キャリアパスポートを主体的に書かせるためには、授業者の仕掛け(単元での学習内容の具体的説明)が大切であることが理解できました。黒沢先生のお話が腑に落ちました。今後の実践(支援)に生かしていきたいと思います。
- 自立した学習者の育成のために、学習キャリアパスポートの効果的な活用や単元内自由進度学習の実現など、挑戦できることがたくさんあるので積極的に挑戦していきたいです。
- キャリアパスポートを活用して、目標に近づいたことで、充実感や達成感を生徒に感じてもらいたいです。そしてそれが教科の良さを見出すツールになるよう実践していきたいと感じました。
- 学習課題の設定や、それぞれの能力を生かせる場面を具体的に提示するなど、NINOを根拠にした授業づくりを進めていきたいと思います。
- 単元を見通した、授業構想を常に意識して、実践を繰り返していくことかと考えます。
- 互いの実践を見合い、高めていければよいと思います。
- 各自の特性をどの場面でどのように生かすかを含めて教材研究したいと思います。
- 3観点の学力を身につけるための適切な指導と評価ができるように学び続けます。